



とこい洋治と一緒に創ろう！ ふるさと笠間市の輝く新時代

「地元の要望に応じて」

私、とこい洋治は、皆様からの要望を受けて、ご協力を得ながら、実現に向けて一緒に行動してきました。その一部を紹介します。

〈県の対応状況〉
◎決定又は実行済
○進行中又は要望済

友部地区

- 環状道路宿大沢線の早期整備 (◎)
・宿大沢線の鴻巣跨線橋～しまむら前がH22年3月全線開通済
- 国道355号大戸橋架け替え整備(○)、高欄(ガードレール)付け替え(◎)
- 酒沼川常磐線鉄橋上流部の改修(○)
- 県道大洗友部線(橋爪地区)の拡幅改良(○)、2・4を地元説明(◎)
- 友部駅前通り(県道平友部停車場線)の整備
①福祉の町の玄関口にふさわしい、人にやさしい道路に改良(駅前340m区間の車道切下げ、歩道整備等)(◎)
②旧畜産試験場・第二小学校前の交差点改良(右折車線設置と町道拡幅・歩道設置)(◎)
- 県道杉崎友部線の整備
①国道50号線～小原地区の改良(◎、○)
②小原地区バイパスの整備(◎、○)
③小原地区の排水U字溝敷設(◎)
④大田町内(松山団地地下～大工町踏切)小・中学生の通学路安全対策(歩道確保と路面水排水)(◎)
⑤大田町内水戸坂の街路灯の設置(◎)
- 信号機設置要望
①県道石岡城里線(友部町柏井区内)ゆかいふれあいセンター入口(◎)
②県道杉崎友部線(松山団地入口、セイコマート前)(○)
③宿大沢線、友部小通学路(◎)
- 茨城中央工業用地笠間地区(旧総合流通センター)関連道路の整備促進
①茨城中央工業団地との連結道路がH22年3月に開通(◎)
②石岡城里線バイパスの整備(◎)
- 酒沼前川、酒沼川、枝折川の管理
①酒沼前川の小原地区・市原地区の除草、たい積土砂の除去と堤防崩壊箇所改修(◎、○) -状況に応じて対応
②酒沼川の住吉地区堤防の除草(◎)、竹木の伐採(湯崎、仁古田)(◎)
③枝折川の友部二中付近のたい積土砂の除去と竹木の伐採(◎)
- 酒沼川大古山橋架け替え整備促進(国庫補助)(◎)
- 県道大洗友部線の整備
①長尾路～住吉、仁古田地区道路改良及び交差点改良(◎、○)



住民から要望があると、必ず現場で一緒に調査。徹底した現場主義。車のトラックには、いつも長靴と作業服、カッパを常備。

- ②仁古田～野曾間の道路改良(○)
- ③北関道友部IC～県立こころの医療センター前までの整備(◎、○)
12. 国道355号友部IC出入口(両側1,140m)の4車線化事業の推進(◎)
13. 県と町が一体となった友部町内道路網の再編整備計画の策定(◎)
14. 旭団地入り口と二中入り口(ジョイフル山新脇)の信号機設置(◎)
旭町の岩間街道「本田材木店」脇の交差点改良(角切り)(◎)
15. 畜産試験場跡地活用
①県の単純一括売却方針を転換させ、地元地域振興の観点からの検討を開始させた(◎)
②地元地域住民の意見反映のしくみづくりを提唱(◎)
③暫定利用を実現
・景観、美観保持のため、地元酪農家の草地として利用(◎)
・地元幼稚園、小学校の校外学習の場として利用(◎)
・友部リトルリーグの野球練習場として利用(◎)
・フィルムコミッションの撮影地として利用(◎)
- ④(新)笠間市合併支援策として跡地を活用(新市建設計画に位置づけた)(◎)
- ⑤県の利活用方針のための勉強会を開催し、原案を作成(◎)
- ⑥一部を「みどりの広場」として暫定利用(◎)
- ⑦新設医科大学誘致を提案(◎)
- ⑧中央病院、こども病院を移転して、こころの医療センターと併せて県立3病院を集中立地させての医師養成センター構想を提案(◎)
16. 茨城中央工業団地(笠間地区)(旧総合流通センター)の整備促進
①進出企業アンケート調査実施など具体的推進方策(◎)
②予定地の防災、防犯対策のための草刈り実施(◎)
③予定地内に、通学安全確保のために防犯灯設置(◎)
④防火帯をつくり、クローバーの種を蒔いた(◎)
⑤農地・市民農園としての暫定利用実現の提案(◎)
17. 岩間ICから友部駅方面への道路案内の明確化(仁古田十字路付近への案内板設置など)(◎)
18. 旭平1区への県コミュニティ助成金交付(◎)
19. 友部リトルリーグへの日生財団からの助成金交付(◎)
20. 宍戸野球スポーツ少年団(現、友部フェニックス)への日生財団からの助成金交付(◎)
21. 県立中央病院の救急医療体制の充実と高度医療化など
①県立中央病院への心臓血管外科を開設して、心筋梗塞などの心臓疾患の全てに外科手術も対応できるようにする(◎)

- ②県立中央病院一帯を「医療・福祉ゾーン」として再編整備して、医療・福祉のメッカとして諸機能を充実させる(◎)
- ③災害拠点病院としてヘリポートの設置・ドクターヘリの運航(◎)
- ④救命救急センターの設置(○) -近い将来の実現を県が明言
- ⑤極早期がん発見が可能なCT付きPET(陽電子放射断層撮影装置)が、H18年3月から稼動(◎)
- ⑥患者の転院先などの相談に応じる医療ソーシャルワーカー(MSW)を2名増員(◎) -現在は8名
- ⑦産科・小児科入院の早期再開(○) -もう一歩です。
- ⑧人工透析センター・化学療法センター・放射線治療センターの設置(◎)
- ⑨救急センターの設置(◎)、ドクターヘリの運航(◎) ドクターカーの運用(◎)
- ⑩手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入 -H25年7月(◎)
- ⑪免震構造での早期建替、同時に畜産試験場跡地への移転を提案(◎)
- ⑫中央病院など県立3病院を畜産跡地に集中させての医師養成センター構想を提案(◎)
22. 県立こころの医療センター(旧友部病院)の整備充実
①全面改築の実現 -H23年4月オープン(◎)
②児童・思春期専用病棟「つくし」の実現(◎)
③筑波海軍航空隊の遺品等の常設展示室(木造施設)の実現(◎)
④全面改築に地元のみかけ石や笠間焼を使用(◎)
⑤筑波海軍航空隊本部棟の保存と活用(◎) -現在「筑波海軍航空隊記念館」として開館中
23. 県道内原友部線(中央病院前通り)の内原ゴルフ場付近のバイパス(拡幅改良)(◎)・岩間街道までの全線拡幅(○)
24. 県道の舗装改修
①大田町の宍戸駅入口十字路付近(県道杉崎友部線)(◎)
②住吉の北川根小学校入り口十字路付近(県道水戸岩間線)(◎)
25. 友部サービスエリアのETC専用インターチェンジの社会実験の開始と恒久設置の実現(◎)
26. 友部駅前の交番の現地建て替え(◎)
27. 小原地区の農業基盤整備(畑地帯総合整備事業)の促進、大幅予算化(◎)、県営経営体育成基盤整備事業の22年度採択(◎)
28. 霞ヶ浦用水Ⅲ期の早期完成に向けた大幅予算化(市原、小原、友部中央、随分附、北川根の各地区)(◎、○)
29. 五平地区小沢眼科医付近の街路灯、横断歩道の設置(◎)、歩道の設置(○)
30. 湯崎地区二所神社の境内林の間伐(森林湖沼環境税を活用)(◎)

岩間地区

1. 巴川(常磐線交差点)河川改修と本格的改良促進 -岩間南部土地区改良区(◎、○)
2. 巴川(福島区内、第3機場付近)河川改修 -巴川第一水利組合(◎)
3. 県道南指原岩間停車場線通行不能道(長沢区～吾国山洗心館)の解消(◎、○) -民地買収は終了
4. 県道上吉影岩間線の整備
①櫛山地区危険箇所の解消(◎)、大笹立橋までの全線拡幅(◎)
②岩間消防署前の改良実現と未改良部分の早期実現(◎)
5. 県道石岡城里線(安居区内)の改良促進と同バイパス(総合流通センター関連道路)予定地の用地買収の具体化(◎、○)
6. 茨城空港のアクセス道路として岩間IC～百里の直結道路の実現化(◎、○)
7. 国道355号石岡岩間バイパスの整備促進



県職員OBとして県庁の幹部に地元の要望。腰は低いが、足と熱意で実現する。地元の営業マンに徹している。

- H22年2月全線開通済(◎)
8. 国道355号の整備
①上町、仲町、栄町地区の舗装改修(下水道工事後のオールカバー)
②栄町区内通学路安全のための草刈り(◎)
③上町、仲町、栄町地区内の側溝清掃(◎)
④市野谷地区内の全面的路面整備による歩道確保(◎)
⑤市野谷地区コメリ付近の道路際段差の解消(◎)
9. 信号機設置要望
①櫛山から海洋センター入口地点 -設置に向けて道路を整備中(◎、○)
②上押辺(旧)平安閣前海洋センター入口(◎)
③市野谷地区の福島方面へのT字路(○)
④国道355号岩間バイパス福島区内の通学路(○)
10. 岩間街道土師十字路の改良による危険箇所の解消と桜井橋(桜川)への歩道付設(◎、○)
11. 土師地区内、酒沼川、桜川合流点からの逆流による水田冠水対策(測量調査と対応策)(◎、○)
12. 随光寺川、桜川(上郷地区)のたい積土砂の除去、えん堤崩壊箇所の改修(◎) -状況に応じて対応
13. 酒沼川、桜川の整備

- ①両河川の合流地域(土師、押辺地区)の洪水防止対策(○)
- ②河川内の竹木の伐採(土師、上・下押辺、下安居、仁古田地区)による流れの円滑化(◎)
- ③安居地区の洪水防止対策(○)
14. 上安居地区(県道茨城岩間線)の常磐道との交差点のずい道への照明灯設置(◎)
15. 下押辺地区内の新池の土堤改修実施と日本道路公団からの補償(◎)
16. 岩間囃子保存連合会への県コミュニティ助成金交付(◎)
17. 泉囃子保存会への県コミュニティ助成金交付(◎)
18. スポーツ少年団剣道部への日生財団からの助成金交付(◎)
19. 栄町地区、上町地区への県コミュニティ助成金交付(◎)
20. 公民館建設への県コミュニティ助成金交付
①上押辺区(◎) ②旭町西区(◎) ③新渡戸区(◎)
④福島区(◎) ⑤下安居区(◎) ⑥吉沼区(◎)
21. 日吉町地内の危険な県道敷内電柱の撤去 -歩行者の安全確保(◎)
22. 土師地区の水田用水路の敷設替え(1,300m)(◎)
23. 下安居地区のため池(道明池)のろう水防止対策(◎)
24. 小島地区農業用排水路の整備(◎)
25. 国道355号石岡岩間バイパス開通に伴う農道の安全確保(◎)
26. 常磐線春日町踏切の拡幅と県道上吉影岩間線の拡幅(○)

笠間地区

1. 国道355号笠間バイパスの整備促進(◎、○)

2. 本戸地区南指原川のたい積土砂の除去(◎)
3. 福田地区酒沼川のたい積土砂の除去(◎)
4. 間黒川(寺崎・箱田地区)のたい積土砂の除去(◎)
5. 県道富谷稲田線(稲田地区)の整備促進(○)
6. 県道稲田友部線(本戸地区)のバイパス整備(◎)

7. 県道真端水戸線(大橋～池野辺)の整備促進(○)
8. 県道日立笠間線(大湖)の整備促進(◎)
9. 箱田中央土地改良事業(片庭川改修)の推進(◎)
10. つくば～笠間(道祖神峠トンネル)～大子の茨城縦貫幹線道路構想(県議会調査特別委員会が提言)の推進(○)

笠間市の皆さん、これからは、地域の課題をどしどし要望してください。私、常井洋治は、一緒に考え、共に行動して実現に努めます。



水戸土木事務所、地元の要望を幹部の皆さんに説明。(H25年7月)
北関道友部ICから大沢跨線橋が開通。(H25年7月)



▲宿大沢線(友部環状道路)全線開通で友部小マーチングバンドの皆さんと。(H22年3月)



▲私が一貫して主張してきた早期がん発見の診断装置CT付PETが県立中央病院に導入。(H18年3月)



▲箱田中央土地改良区の大理事長らと水戸土木事務所、県農林事務所へ片庭川の台風被害の復旧を要望。出席職員・関係者は、20人を超えた。(H23年11月)
▲寒風の中、岩間地区随光寺川の土砂たい積の調査。(H15年1月)



▲来栖地区の菊まつりにて。(H25年11月)
▲小原～池野辺(市道1級3号線)の一部開通にて。(H22年3月)



▲吉沼区公民館落成式にて。(H25年9月)

3.11 あのときを忘れない

《復刻版》

EGAO DAISUKI

笑顔大好き

茨城県議会議員

とこい洋治

県政報告 Vol.48 2011.5.28

とこい洋治事務所 〒319-0205 笠間市押辺1745 TEL 0299(45)6818 FAX 0299(45)0818

平成23年3月11日発生 東日本大震災 **がんばろう日本、いばらき、かさま!!**

(マグニチュード9.0 震度6強)

燃える郷土愛。全力投球!!

この度の大震災で尊い命を亡くされた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。また、皆様をはじめ被災された多くの方々にお見舞いを申し上げます。

地震、津波、原発事故、風評被害、そして放射性物質による健康不安と、私たちの生活は、まさに五重苦の中であえいでいると言っても過言ではなく、心が折れそうな日々を送っている方も多く拝察します。

このような中で、4期目をスタートしたばかりの私にできることは、かつて経験したことのない大震災を「生き残らせていただいた者」の一人として、少しでも被災者の皆様の気持ちに寄り添い、皆様との信頼の絆を強固にして、わが郷土を安心して暮らせる地域に

再構築するために全力を注ぐことと考えております。12年前のJCO臨界事故以来、放射性物質の危険性に強い関心を払ってきた私は、本県が福島県のような事態におちいらないよう東海第二原発の安全性チェックにも心新たに取り組む覚悟です。

そして、これまで以上に、「命と健康を守る政治」を大きく掲げ、皆様が元の笑顔を一日も早く取り戻せるように県政壇上で頑張っていく所存であります。

余震や原発事故が今なお続く中で不安な状況にありますが、どうかご自愛をくださいますようお願い申し上げます。

茨城県議会議員 **とこい洋治**



▲本県を代表するイベントである笠間の陶炎祭(ひまつり)であいさつする常井洋治議員。県内外から昨年より5万人多い38万人が訪れた。橋本知事(左隣り)とも、イベントの自粛を続けては、県内の景気も雇用も心配だと話し合った。震災で大きなダメージを受けながらも実行した笠間焼協同組合(川野輪和康理事長)の役員、組合員の皆さんの英断に敬意を表したい。(23年4月)

茨城県の主な被害状況

- (1) 人的被害 (5月23日現在)
 - 死亡23名、重症33名、行方不明1名
- (2) 住宅被害 (5月23日現在)
 - 全壊棟：1,588、半壊棟：8,889、一部損壊：113,947
 - 床上浸水：1,189、床下浸水：672
- (3) 避難者数
 - ・ピーク時：77,285人(3月12日8時、避難所設置数：40市町村594カ所)
 - ・福島県からの避難者のピーク：1,865人(3月21日10時、避難所：県4、15市町23カ所)
- (4) 被害額
 - ◎土木公共施設…1,118億円(5月2日現在)
 - ・茨城県計 629億円
 - 道路86、河川・海岸・砂防・急傾斜156、港湾329、下水道16、公園20、県営住宅22
 - ・市町村計 489億円
 - 笠間市(7)
 - ◎農林水産業関係…1,052億円(5月11日現在)
 - ・農業：345億円(用排水施設1,804地区等)
 - ・林業：48億円
 - ・漁業：659億円
 - ◎教育施設※ 87億円
 - ◎社会福祉施設等※ 1.2億円
 - ◎医療機関※ 4.5億円(中央病院等)
 - ◎企業局 上水・工業用水※ 3.9億円 (※は、県関連施設のみ)

突然の大震災の中で



▲地震発生時は、保健福祉委員会開会中であった。常井議員らは、この机の下で取まるのを待った。(23年3月11日午後2時46分発生)



▲議員、職員らは外に避難したが、余震は続き、議事堂の外壁が一部損壊の様子を眺めた。(23年3月11日15時25分)



▲笠間市赤十字奉仕団などボランティアの皆さんによる炊き出しは、避難住民の心をなごませてくれた。笠間中学校にて。(23年3月12日10時14分)



▲笠間市職員の皆さんは、自宅の被災を顧みず、避難住民のために、不眠不休で働いてくれた。友部中学校にて。(23年3月12日10時39分)



▲停電のため、店を開けた数少ないスーパーには、食料や水を求めて長蛇の列ができた。(23年3月12日11時18分)



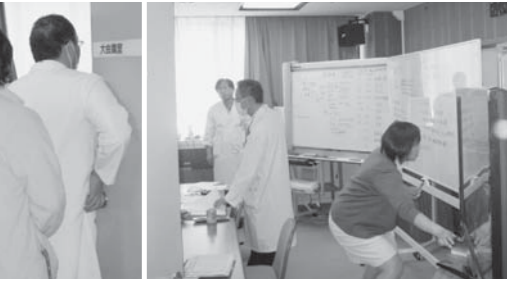
▲ガソリン、灯油の不足が続く、市民生活は不安にさらされた。ガソリンスタンド前の行列。(23年3月17日)



▲停電と水道の断水のため、飲み水やトイレの水を求めて消防署の給水車には、静かな長い行列ができた。笠間公民館にて。(23年3月12日11時01分)



▲県立中央病院では、①手術・通院患者受入れの再開、入院患者・医師らの食料・水・自家発電用の燃料不足などにどう対処するか、②入院患者、病院機能をどのようにするかなどについて、永井院長、医師、看護師らが一堂に会し、緊迫した話し合いがされていた。医師らの士気の高さは、素晴らしい。(23年3月12日11時51分)



▲県立中央病院では、①手術・通院患者受入れの再開、入院患者・医師らの食料・水・自家発電用の燃料不足などにどう対処するか、②入院患者、病院機能をどのようにするかなどについて、永井院長、医師、看護師らが一堂に会し、緊迫した話し合いがされていた。医師らの士気の高さは、素晴らしい。(23年3月12日11時51分)

笠間市の主な被害と復旧状況

笠間市総務部調べ (5月22日現在)

- (1) 人的被害 負傷者 50名
- (2) 住宅被害
 - 全壊棟：12、大規模半壊棟：3、半壊棟：76、一部損壊：5,442
 - 外に非住家(ブロック塀等)多数
- (3) 笠間市運営避難所 1カ所(笠間公民館2F和室)：避難者数0人
 - ・避難者数のピーク：約2,000人(内福島県からの避難者のピーク：30人)
 - ・避難所のピーク：9カ所設置
- (4) 市施設の復旧等の状況
 - ①市庁舎・各支所
 - 本所 本庁舎裏側の増築庁舎の一部の天井落下。業務は継続。笠間支所 業務継続は不可能。笠間公民館に臨時支所を設置(3/12)
 - 岩間支所 業務継続
 - ②市道・上下水道等施設

種別	被害状況
市道	亀裂・陥没カ所 約273 復旧のため、通行止 4
公共下水道	管渠等 破損カ所 約34
農業集落排水	管渠等 破損カ所 約16
上水道	管渠等 破損漏水カ所 約124
農業関連施設等	ため池 8、土地改良施設 54 など
防火水槽等	笠間地区 25、友部地区 17、岩間地区 0

- (5) ライフラインの復旧状況
 - ①電気 全域復旧(3月13日午前9時から順次復旧)
 - ②水道 全域通水(3月14日から17日にかけて順次通水)
 - ・水道水検査結果の最新データ：5月16日、北山の高区配水池・石寺浄水場・宍戸浄水場・吉岡浄水場から取水した水道水の放射性ヨウ素/不検出 放射性セシウム/不検出(茨城県企業局などで検査) ※3月23日に酒沼川浄水場の水道水から、放射性ヨウ素131が170ベクレル/kg検出された。

東日本大震災関係 県補正予算

22年度補正予算(専決処分) 72億円—県立中央病院などの災害復旧及び災害救助関連

23年度補正予算(専決処分) 51億円—中小企業融資資金貸付金など

23年度6月補正予算見込み額 1,400億円規模—6月議会提案予定

公共事業・施設復旧に1,000億円、残りは中小企業向けの融資などになる見込みと、橋本知事が記者会見(2011.5.11)

被災状況をつぶさに調査、早期復旧・復興を要請



▲常井議員は、いばらき自民党の政調会筆頭副会長として、災害対策会議で知事や国への緊急要請を検討し、まとめ役として活動した。



▲いばらき自民党議員45人が被災状況を調査した結果を踏まえて、知事に早期復旧の予算化を要請。



▲笠間市の要請を受け、常井議員は、渡邊県企業局長に対し、笠間市の水道水の放射性物質の検査を依頼した。



▲「災害拠点病院」として期待された県立中央病院も自ら被災して、十分な機能を発揮できなかったのは、とても残念だった。



▲笠間地区の稲荷神社前の商店街も大きなダメージを受けた。早く観光客を回復させたいと、田所、村上県議と調査した。



▲笠間焼は、のぼり窯や陶器の損壊でダメージを受けたが、地場産業として、皆さんと協力して再興させたい。



▲酪農家は、福島第一原発事故の放射性物質による原乳の出荷規制で、毎日搾った原乳を廃棄処分していた。



▲地震による長時間停電で、花栽培農家は暖房が切れ大きな損害を受けた。川上好李茨城中央農協組合長らと調査。



▲常井議員は、県の災害対策本部を訪ね、職員や自衛隊員らの労をねぎらった。県は、定期人事異動日も変更して奮闘した。

県議会改革等調査検討会議が発足。常井議員が座長代理に就任

田山東湖議長からの諮問を受け、県議会のあり方の検討や次回県議選(平成26年、2014年)に向けた定数及び区割りを議論して、来年(2012年)末を目途に成案をまとめます。座長は、海野透議員。メンバーは各会派から12名。